

## 子どもの生活実態に関するアンケート調査結果について

子どもの貧困対策を推進するためのニーズを把握することを目的として、生活状況・課題・悩み、支援ニーズに関するアンケート調査を実施しました。

この度、当該調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。

本調査の結果は、今後、各種会議において、子どもに対する支援策を検討するため活用してまいります。

### 調査の概要

#### 1 調査対象

- ・保護者対象の調査

(1) 市内在住の児童扶養手当受給世帯の保護者 2,500 人

- ・子ども対象の調査

(2) 上記世帯の小学 5 年生、中学 2 年生 500 人

(3) 市内各区 1 校ずつ選定したモデル校の小学 5 年生、中学 2 年生 713 人

#### 2 調査期間及び方法

- ・調査対象 (1) 及び (2) について

平成 29 年 9 月 13 日から平成 29 年 9 月 28 日まで

郵送配布・回収

- ・調査対象 (3) について

平成 29 年 7 月 12 日から平成 29 年 7 月 18 日まで

学校への直接配布・回収

#### 3 調査結果

次の資料のとおり

- ・子どもの生活実態に関するアンケート調査結果概要（添付資料）

- ・子どもの生活実態に関するアンケート調査結果報告書

(1 月 12 日から市ホームページに掲載

URL <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/seisyonen/037448.html>)

《お問い合わせ》

相模原市 こども・若者支援課 青少年支援班

電話 042-769-8289

# 子どもの生活実態に関するアンケート調査 結果概要

## 調査の概要

### 1 調査目的

今後の子どもの貧困対策を推進するためのニーズを把握することを目的として、生活状況・課題・悩み、支援ニーズに関するアンケート調査を実施した。

### 2 調査対象及び件数

(1) 市内在住の児童扶養手当受給世帯の保護者	2,500人
(2) 上記世帯の小学5年生、中学2年生	500人
(3) 市内各区小中1校ずつ選定したモデル校の小学5年生及び中学2年生	713人

### 3 調査期間

- (1) 平成29年9月13日から平成29年9月28日
- (2) 平成29年9月13日から平成29年9月28日
- (3) 平成29年7月12日から平成29年7月18日

### 4 調査方法

- (1) 郵送配布・回収
- (2) 郵送配布・回収
- (3) 学校への直接配布・回収

### 5 回収状況

(1) 保護者調査	2,500 通配布	846 通回収	33.8%
(2) 子ども調査	500 通配布	166 通回収	33.2%
(3) モデル調査	713 通配布	565 通回収	79.2%

### 6 分析方法

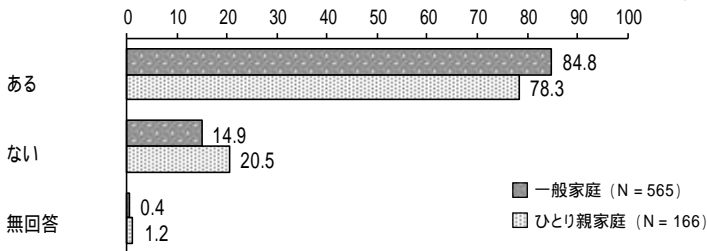
- 子どもの調査結果において、世帯構成の異なる、(2)、(3)の調査で比較分析を行った。
- 子どもの調査結果において、(2)の調査を「ひとり親家庭」、(3)の調査を「一般家庭」と表記した。
- 保護者の調査結果においては、クロス集計により分析を行った。  
なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、グラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法である。

# 子ども調査結果(抜粋)

## 1【学習・生活状況】

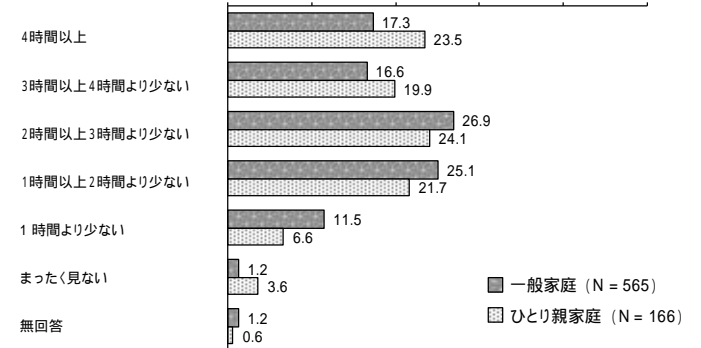
(1)問3 家の中に自分が勉強できる部屋や決まった場所が「ある」という回答が、「一般家庭」に比べ「ひとり親家庭」で低い。

【問3】家の中に自分が勉強できる部屋や決まった場所がありますか。



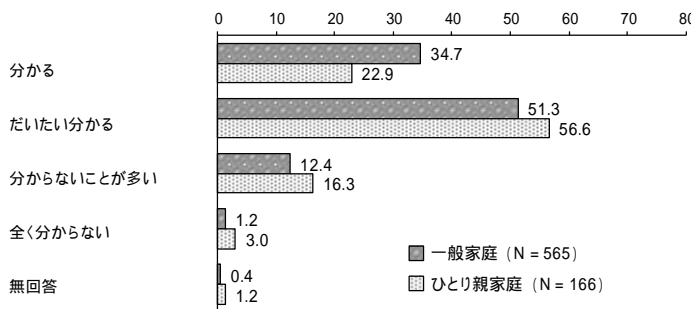
(2)問9 学校のある日に、1日どれくらいの時間、テレビやゲーム、インターネットのサイトを見るかで「3時間以上」という回答が、「一般家庭」に比べ「ひとり親家庭」で高い。

【問9】テレビやゲーム、インターネットのサイトを見る時間 %

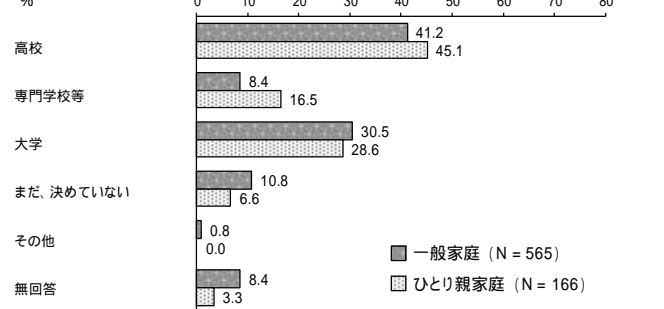


(3)問4 問5-2 ひとり親家庭は、一般世帯と比較し、学校の授業の「分かる」割合が低い。また、中学校を卒業した後の進路について高校や専門学校への希望が、「一般家庭」に比べ「ひとり親家庭」で高い。

【問4】 学校での勉強は分かりますか。



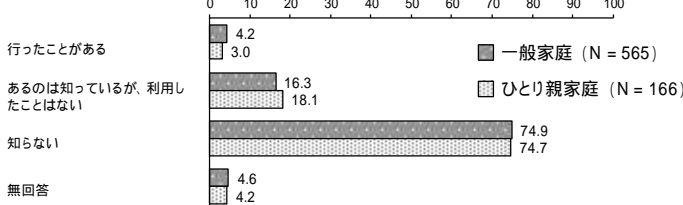
【問5-2】 どの学校を卒業したいですか



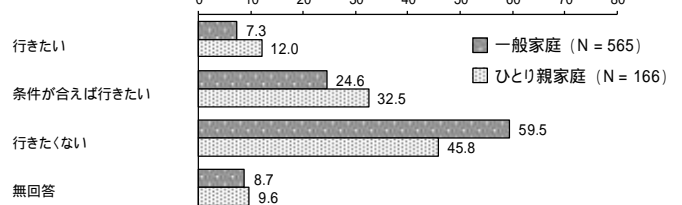
## 2【支援の認知度・ニーズ】

(1)問15 問16 無料学習塾については、一般家庭、ひとり親家庭ともに、70%以上の子どもが「知らない」と回答しているが、無料学習塾については一定のニーズ(「行きたい」・「条件が合えば行きたい」と回答)があり、その割合は、ひとり親家庭のニーズが高い。

【問15】 無料塾を知っていますか。

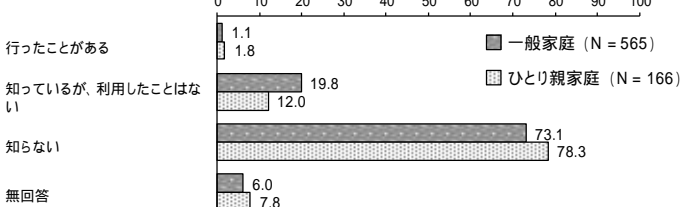


【問16】 無料塾に行きたいと思いますか。

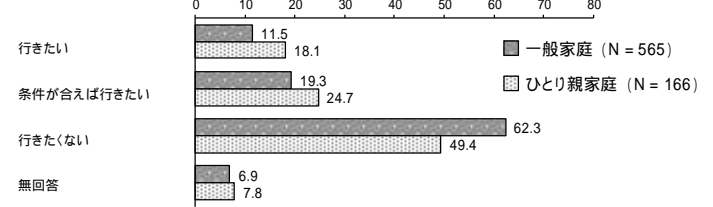


(2)問17 問18 子ども食堂については、一般家庭、ひとり親家庭ともに、70%以上の子どもが「知らない」と回答しているが、子ども食堂については一定のニーズ(「行きたい」・「条件が合えば行きたい」と回答)があり、その割合は、ひとり親家庭のニーズが高い。

【問17】 子ども食堂を知っていますか。



【問18】 子ども食堂に行きたいと思いますか。



# 保護者調査結果(抜粋)

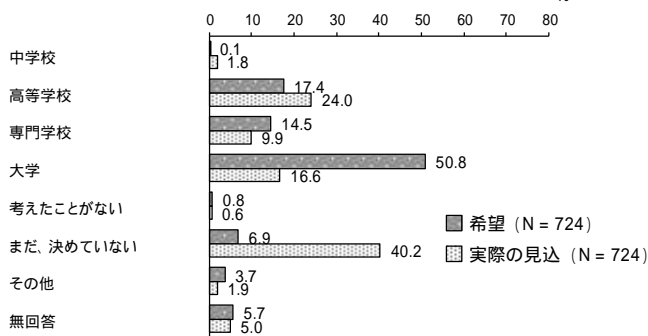
保護者調査N値(対象者数)の定義

- ：全ての保護者を対象：～以外【N=846】
- ：未就学児(0-6歳)を養育している保護者を対象 問10【N=194】
- ：小学生以上18歳以下の子どもを養育している保護者を対象：問1~9、15、【N=724】
- ：小・中学生を養育している保護者を対象：問31-33【N=588】

## 1【経済状況】

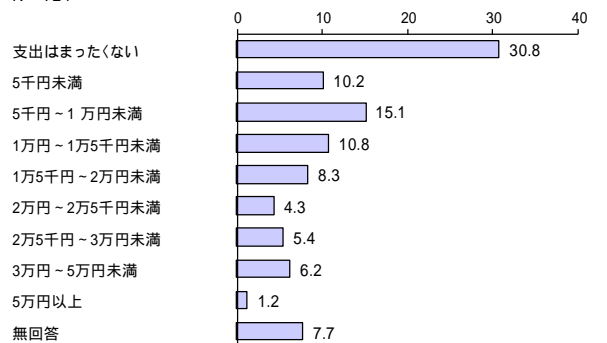
(1)問4 子どもの進学について、半数以上の保護者が自分の子どもに大学まで進学してほしいと回答しているが、実際に大学に通わせることができると見込んでいる保護者は1/3程度である。

【問4】 将来どの学校まで卒業(修了)させたいと思いますか。



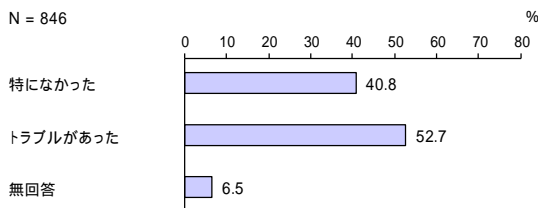
(2)問9 学校以外の教育にかける1か月あたりの平均支出について、30.8%が「支出はまったくない」と回答している。

【問9】 学校以外の教育にかける1か月あたりの平均の支出はどれくらいですか。



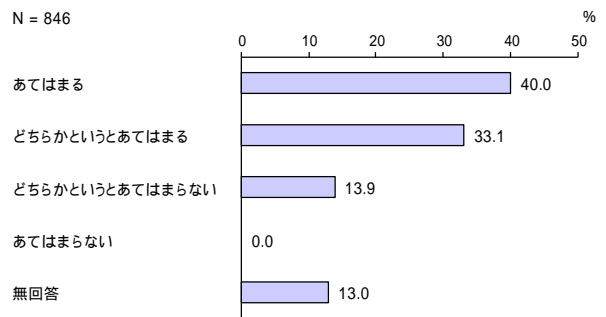
(3)問34 養育費、慰謝料、財産分与、離婚、親権、面会交流など、ひとり親世帯に起こりうる心配ごとやトラブルについて、52.7%の保護者が経験している。

【問34】 法律に関する心配やトラブルはありましたか。



(4)問37-11 「子育てのための経済的負担が大きすぎる」という設問に対して、保護者のうち、73.1%が「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答している。

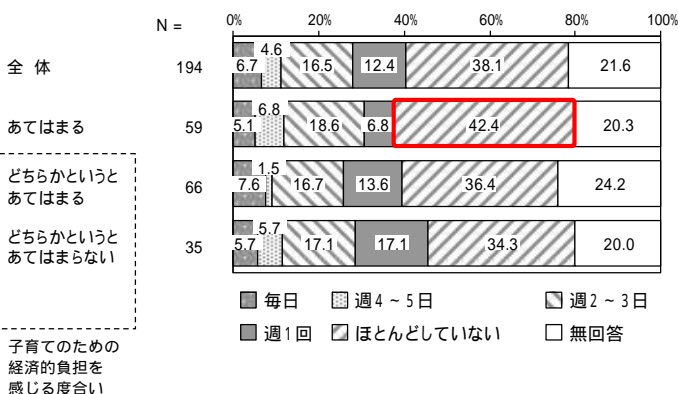
【問37-11】 子育てのための経済的負担が大きすぎる。



## 2【子どもとの関わり】 : クロス集計による分析

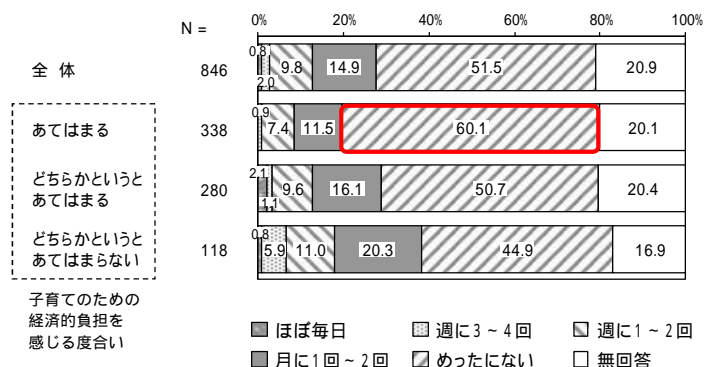
(1)問10 絵本の読み聞かせの機会について、子育てのための経済的負担が大きすぎると感じている保護者ほど、こうした機会が少ない傾向が見られる。(問37-11)

【問10】 絵本の読み聞かせをどのくらい行なっていますか。



(2)問11-2 サッカーやキャッチボールなど、子どもと一緒に体を動かす機会について、子育てのための経済的負担が大きすぎると回答している保護者ほど、こうした機会が少ない傾向が見られる。(問37-11)

【問11-2】 お子さんとサッカーやキャッチボールなど、一緒に体を動かす。

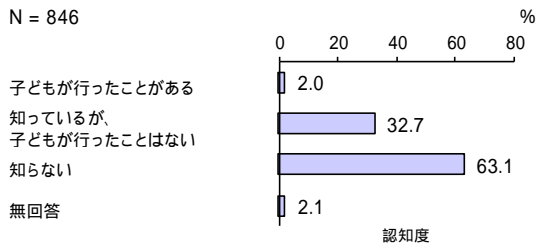


### 3【支援の認知度・ニーズ】 : クロス集計による分析

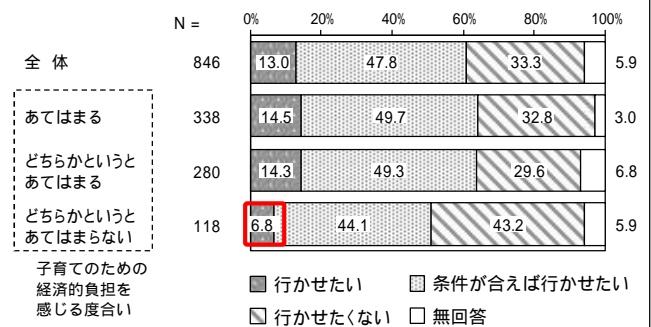
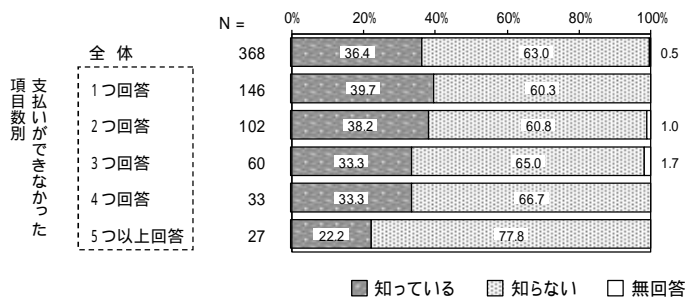
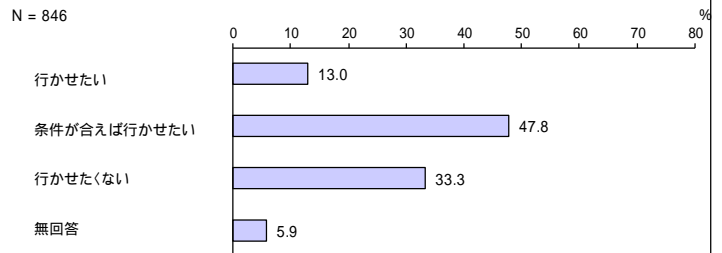
(1)問 24 子ども食堂については、半数以上の63.1%の保護者が「知らない」と回答している。また、認知度を、支払いができなかった項目数と比較すると、項目が多くなるほど「知らない」の割合が高くなり、経済的な負担感の大きさから、支援施策へ関心を向ける余裕が無い可能性があることが伺える。  
( 問17)

(2)問 25 子ども食堂については、60.8%の保護者が「行かせたい」・「条件が合えば行かせたい」と回答している。特に、子育てのための経済的負担と比較すると、経済的負担がないと回答している人ほど「行かせたい」の割合が低くなっている。( 問37-11)

【問24】 「子ども食堂」という取組がありますが、この取組を知っていますか。



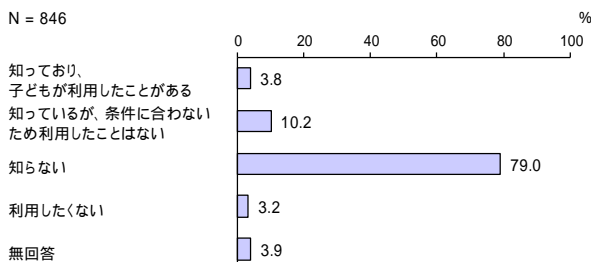
【問25】 「子ども食堂」に行かせたいと思いますか。



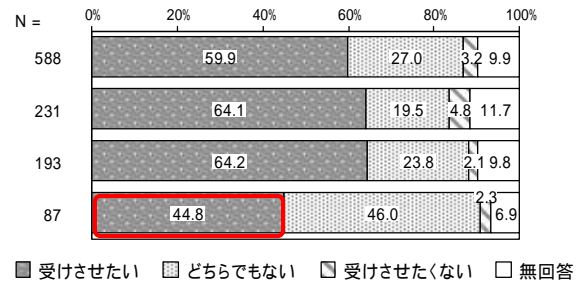
(3)問 29 地域やNPOが主体となった学習支援の取組(無料塾)については、79.0%の保護者が「知らない」と回答している。

(4)問 31 問 32 「市主催の無料の学習支援事業」、「無料の家庭教師派遣」で半数以上の保護者が「受けさせたい」と回答している。特に、子育てのための経済的負担がないと回答している人ほど「無料の家庭教師派遣」、「市主催の無料の学習支援事業」を「受けさせたい」割合が低くなっており、経済的に負担を感じている家庭における無料の学習支援や家庭教師の需要が伺える。( 問 37-11)

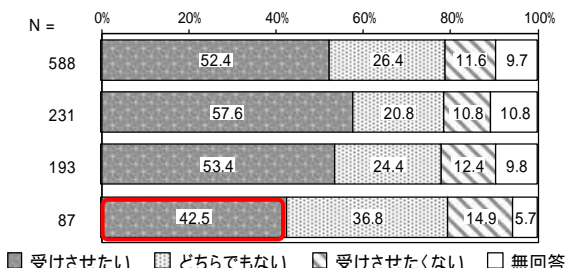
【問29】 学習支援の取組(無料塾)がありますが、このことを知っていますか。



【問31】 無料の学習支援事業を、受けさせたいと思いますか。



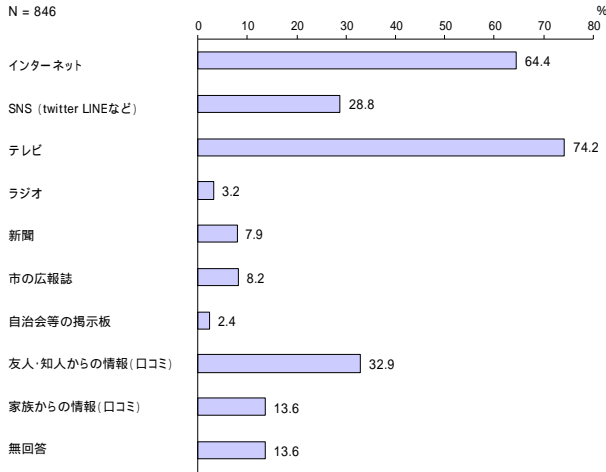
【問32】 無料の家庭教師の派遣を、受けさせたいと思いますか。



#### 4【情報収集源】 : クロス集計による分析

(1)問 16 保護者が生活するうえでの情報収集源については、テレビ、インターネット、SNS、友人・知人からの情報の割合が高い。回答者の年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「SNS (twitter LINE など)」の割合が高くなっている。また、他の年代に比べ、30代で「インターネット」の割合が、50代以上で「新聞」の割合が高くなっている。(問C)

【問16】 あなたが生活するうえでの情報収集源は何ですか。



【問C】 保護者の年齢別

区分	有効回答数(件)	インターネット (Twitter LINEなど)	SNS	テレビ	ラジオ	新聞	市の広報誌	自治会等の掲示板	友人・知人からの情報(口コミ)	家族からの情報(口コミ)	無回答
全体	846	64.4	28.8	74.2	3.2	7.9	8.2	2.4	32.9	13.6	13.6
10代	2	50.0	100	100	-	-	-	-	-	-	-
20代	52	59.6	48.1	55.8	1.9	3.8	-	1.9	23.1	11.5	26.9
30代	276	69.6	33.3	70.3	2.2	4.7	5.8	2.2	32.2	12.7	15.2
40代	410	62.7	26.1	78.3	3.7	9.3	10.7	2.7	33.2	13.9	10.7
50代以上	98	60.2	15.3	78.6	4.1	14.3	9.2	2.0	38.8	16.3	13.3

### まとめ

- 1 学校での勉強について、ひとり親家庭の子どもにおいて授業の理解度が低い傾向がみられます。
- 2 中学校卒業後の進学について、ひとり親家庭の子どもにおいて大学進学の希望が低い傾向がみられます。
- 3 家での生活について、ひとり親家庭の子どもはインターネットやゲーム等に費やしている時間が長い傾向がみられます。
- 4 ひとり親家庭の子どもにおいて、子ども食堂や学習支援へのニーズが高い傾向がみられます。